

認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会
れんぎ

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階

Tel:03-5206-5260 Fax:03-5206-5261

Email:yunnan@jyfa.org URL:http://www.jyfa.org/

【昆明代表處】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室

Tel.+86-871-63311468 Fax.+86-871-63320658

[f http://www.facebook.com/NPO.JYFA](http://www.facebook.com/NPO.JYFA)

[@jyfa](#)

ブログ 雲南の郵便屋さん

検索



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第84号

発行日 2023年(令和5年)12月15日

会報

謹賀新年



会員の皆様、ご協力者の皆様、ボランティアの皆様、協会を支えてくださっている全ての皆様、新年明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

2023年は、日中平和友好条約締結45周年の節目の年となり、協会は積極的に両国の草の根交流事業に取り組みました。2

月には、雲南省昆明市にて日本国総領事館や JETRO 等と提携し、雲南省で初めてとなった大規模なジャパンフェスティバルを成功させました。

9月には、東京でのチャイナフェスティバルに参加し、私たちの活動を通じて両国の皆様に日本と中国の文化を知っていただくことができました。12月には4年ぶりとなった協会主催「日本と雲南少数民族の友好の夕べ チャリティー忘年会」の開催が叶い、会員の皆様や新たな方々と出会うことができ、非常に励みになりました。

また活動報告映像を通して、皆様から感動の声が上がっておりました。

私たちが今対峙している世界は、疫病、

2024年 新たなる飛躍を迎えて

自然災害等が頻繁に発生し、不安定な時代の流れの中にはあります。だからこそ、次世代を担う若者たちが幸せで暮らしやすい社会の構築を念頭において、教育支援こそが重要ではないかと考えております。

中国の著名な詩人である冰心氏が「有了愛就有了一切(愛こそ全て)」という言葉を残しているように、協会は世界中の温かい支援や思い、希望の受け皿となり、子どもたち、そして社会に届けていく使命があると考えております。

昨年度は、雲南省少数民族の子ども達への教育支援事業(「25の小さな夢基金」)において、278名の女子高生を支援致しました。

会員の皆様方と現地での支援している子どもたちと交流することは叶いませんでしたが、今年こそ「雲南ふれあいの旅」の企画・計画を進めていきたいと考えております。

また雲南省の若者たちが日本で留学や就職をするためのサポート事業にも力を入れたいと考えております。

本年も、これまで支えて下さった皆様の思いを乗せて、初心を忘れず走り続けたいと考えております。どうぞ支援・理解・ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

日本雲南聯誼協会 理事長 初鹿野 恵蘭

元旦

25の小さな夢基金 「25の小さな夢基金」第15期生卒業 皆様からのご支援と励ましに支えられた高校生活



「25の小さな夢基金」の第15期生が6月、昆明市女子中学高等部を卒業しました。彼女たちが入学した2020年9月には、新型コロナウィルスが世界中で猛威をふるっていました。初めて親元を離れ、寄宿生活を

送るだけでも15歳の彼女たちにとっては心細いことです。コロナ禍に大都市昆明にやってきた彼女たちは、どれほど不安だったでしょう。

しかし、日本の里親サポーターからの手紙

や贈り物、励ましの言葉を励みに、先生やクラスメートとともに高校生活の素敵な思い出をたくさん作れたことだと思います。

1年生(2020年9月～2021年8月)…9月入学式。コロナの影響で授業中止。春節明けに再開。3月、日本語授業開始。6月「第10回夢は叶う講演会」

(講師:許峰顧問)オンライン開催。

2年生(2021年9月～2022年8月)…11月愛知県立津島高等学校とオンライン交流会。1月支援者からの春節の贈り物オンライン贈呈。6月「第11回夢は叶う講演会」

(講師:徐静波様)オンライン開催。

3年生(2022年9月～2023年7月)…6月初旬、大学入試統一試験。昆明市女子中学高等部卒業。

姉妹揃って昆明市女子中学高等部で学び、協会のサポートを受けた金垚さんから3年間の支援への感謝と高校生活の思い出、今後の決意を記したお手紙が届きましたので紹介します。

■事務局より第15期生の里親サポーターの皆様へ

2020年秋より3年間のご支援に、心より深く感謝申し上げます。本来ならば春蕾生から最後の感謝のお手紙が届くはずでしたが、現地の事情のため実現できませんでした。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

より良い人生への扉です。必要なことは恥ずかしがつたり怖がつたりすることではなく、夢を追う勇敢さと粘り強さです。そしてそれは昆明市女子中学高等部が教えてくれた強さであり、その博学優美の教えを私は実現するつもりです。将来、この3年間で得た知識で、先生方のご苦労、家族の期待、皆様のご支援に必ず報います。

「道は遠く、旅はこれから」と思いつつも、今は母校との別れに涙が止まりません。が、伝えきれない思いと離れがたさ、そしてなにより母校への感謝と、協会の皆さんと惠蘭おばさまへの感謝を胸にこの学び舎を旅立ちます。協会の更なる発展をお祈ります!

金垚

25の小さな夢基金 昆明市女子中学高等部卒業生からのメッセージ

協会への感謝の気持ちと新たな決意を胸に新しい世界へ

第15期卒業生 金垚さん



▲左より姉・金卉さん、母・金垚さん

昆明市女子中学高等部の2023年度卒業に際し、協会及びこの学校で学ぶ素晴らしい機会を与えてくださった理事長の惠蘭おばさまに心より感謝しております。

この三年間、私は学費のプレッシャーに悩

ることなく、担任の先生やクラスメイト、また学校内のさまざまな方々の温かい思いやりと助けを得ながら過ごすことができました。泣いたり笑ったり、今、いろいろな思い出が眼の前に浮かんでは消え、どれも忘れることができません。笑顔いっぱいのクラスメイトたち、試験のたびに引率してくださった先生、外出時に「気をつけ」と声をかけてくれた警備のおじさん、おいしいご飯をつくれてくれた食堂のおばさん。すべて一生の思い出です。

私の姉も実は協会の支援を受け本校で学んだ卒業生なのですが、数年前、協会から日本を訪れるチャンスをいただき訪日した経験があ

ります。協会に対する大変な感謝の気持ちを胸に視野を広げ帰ってきたその姉の姿は、より一層、私の、将来へのあこがれを強くしました。そこで、私も協会が開く日本語クラスに参加し、毎週末日本語を学び、実り多い放課後生活を送っていたのですが、実はその裏には協会サポーターの方々の大変な思いやりとご支援があることも知り、思わず感動しました。皆様お一人お一人に心から感謝申し上げます。どうぞ皆さん、健康に気をつけて、何かもうまくいきますように!

大学への入学通知を受け取り、大きな期待とともに私は中央民族大学に進みます。ペラソナから見上げる空が闇夜であろうと青空であろうと、この世は美しさで溢れています。学ぶことこそ最良の道、大学進学がこれからの

翻訳ボランティア:栗田久里子さん(「25の小さな夢基金」里親サポーター、翻訳ボランティア)

未来へ向かう 交流活動再開



未来へ向かう交流活動① 日中平和友好条約締結45周年記念事業 チャイナフェスティバル2023に出展

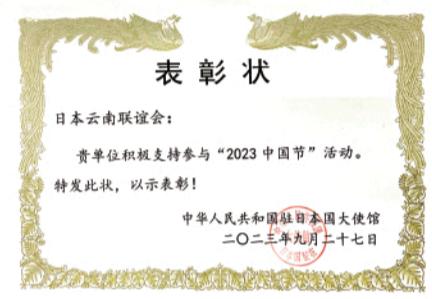


2日間延べ43名のボランティアが参加！

協会ブースに吳江浩大使、福田元総理が訪れ
雲南物産や協会活動について見学しました

9月9日・10日、日中平和友好条約締結45周年記念事業の一つとして、東京代々木公園にて「チャイナフェスティバル2023」が盛大に開催されました。会場には在日華僑華人ら、日中の団体が80近く集い、食、観光、教育、文化公演、展示等、それぞれの特長を生かしたブースを開設。会場のメイン舞台では両日合わせて20以上の文芸プログラムが披露されました。二日間で10万人以上が訪れ、その盛況ぶりは日中各種メディアにおいて報じられました。また、来場者にとっても、各地域の名物料理に舌鼓を打ち、有名観光地情報や中国語教育、また中国茶道や書道、切り絵といった中国文化に触れる貴重な機会となりました。

新型コロナウイルス感染症感染拡大を受け



協会の積極的な交流活動を評価し、後日表彰状が授与されました

4年ぶりの開催となった今回は、協会は一般社団法人日本雲南総商会、雲南省駐日本（東京）商務代表処と共に出店しました。ブース内では活動内容を示したパネル展示をはじめ、鮮やかな花やお茶といった雲南省の特産品、少数民族の刺繡ポーチ等の展示販売をし、雲南省及び協会の魅力を来場者に存分にアピールしました。残暑厳しい中での出店でしたが、43名のボランティアの方々が集まってくれたり、鮮やかな民族衣装を身につけ、会場を盛り上げてくれました。

また、本フェスティバルは協会スタッフ、ボランティア、中国語学習者、太極拳・パンダ・中国料理ファンといった方々が互いに交流を深める大きな機会ともなりました。こうした、直接顔を合わせた交流はかけがいのないもの

世界的に徐々に活動が再開し、協会も支援者の皆様やパートナーとの交流が再開されはじめました。2023年の春から夏にかけて、交流会やセミナーへの参加、蘇州支援者との現地での交流、数年ぶりとなった上海日本人学校高等部の訪問、雲南省からの副省長来日などが続きました。2023年は日中平和友好条約締結45周年にあたりました。秋にはチャイナフェスティバルに参加するなど、協会はこれまで以上に生き生きと活動し、日本と中国の文化交流・経済交流・若者たちの交流を促進していきます。

チャイナフェスティバルとは？

長年にわたり日中交流に尽力してきた多くの機関・団体のトップが執行委員を務め、外交、文化、観光など両国の政府部門がバックアップする、日本最大級の日中友好の祭典。駐日中国大使館と実行委員会が共同で主催し、最高顧問には福田康夫元首相、実行委員長には呉江浩大使、筆頭実行委員には在日中国企業協会（ACE）の王家馴会長が就任されています。



える手で購入してくださった高齢者の姿でした。

展示コーナーからは、初鹿野理事長が偉大な目標を抱き様々な努力をしてきたことが伝わり、感激しました。山奥の女子生徒を手助け、その結果彼女たちが進学できるようになることに、どれだけ大きな意味があるか。

美しい風景と豊かな自然、優しい人々、可愛い子供たち。雲南省のことを一人でも多くの人に知ってもらいたいと思います。協会の方々、ボランティアの方々、そして売上に貢献した方々に心から感謝です！

ボランティア 全学英



協会は大きな温かい家族

9月10日は私にとってとても大切な日になりました。

私はこの頃、ホームシックにかかっていて、故郷を恋しく想う日々を過ごしていました。そんな折に協会のことを知り、ボランティア参加しました。協会の皆さんには温かく親切で、大きな温かい家族のようだと感じました。

故郷の服に着け、特産品を販売し、慈善寄付活動を紹介し、最後に故郷の歌と一緒に歌いました。その感動は今も忘れられません。私にとって、協会は故郷と私を繋いでくれる大きな存在です。今後、また故郷を紹介する機会があればぜひ参加したいです。

ボランティア 高豪

ボランティアからの感想

感動、感激、そして感謝！

雲南人に嫁いだ嫁として初めて、協会のイベントにボランティア参加させていただきました。一日だけでしたが、感動、感激、そして感謝の気持ちで一杯になりました！私は午後から手芸品販売コーナーのお手伝いをしました。中でも印象的だったのは、「300円のプレスレットでも子供たちを救える」と、震



左 全学英さん



「パンダはどうしてパンダになったのか？」

定価：本体1400円+税

詳細・購入方法：

株式会社技術評論社公式HPへ

お問い合わせ：

日本雲南聯誼協会
東京本部事務局



日本雲南聯誼協会×技術評論社 コラボ出版第二弾!!

パンダを通じて日中友好



会場の多元文化会館にはパンダファン
約100名が集まり、シンシンの誕生日
を祝いました！

く経緯を体のつくりや自然環境から解説する内容です。

著者の方盛国氏はパンダの保護、繁殖の専門家で、厳しい自然環境の変化の中でパンダがどう進化してきたかを丁寧な語りでつづっています。パンダの知恵は、現代を生きる私たちにも何かのヒントになると思います。ぜひ、お手に取ってご覧下さい。



日本初 8月1日 雲南物産ショールーム オープン！

協会の協力により雲南省駐日本（東京）商務代表処による日本初の雲南省物産ショールームが8月1日、神田駅近くにオープンしました。ショールームでは特産のプーアル茶や雲南コーヒー、キノコ等、独特な高原農産品を展示し、皆様にも試飲等、体験していただけます。またショールームにおいて、定期的に雲南省物産の体験及び紹介イベントを開催しますので、ご興味のある方は是非、お気軽にお越しください！

ご来場される際は事前にお問い合わせください。



場所 東京都千代田区神田紺屋町6番ラッキービル1F
最寄駅 JR 神田駅南口より徒歩4分
HP <https://www.yunnan-jp.com/>

未来へ向かう交流活動②

吳江浩 新大使就任歓迎会参加

第13代中国駐日特命全権大使として3月に着任した吳江浩・新大使を歓迎する、一般社団法人華僑総会主催の「就任歓迎会」が3月23日、東京華僑会館にて開催され、華僑各界の代表130名余りが出席し、初鹿野惠蘭理事長も出席しました。

吳大使は就任挨拶に際して、『在日華僑同胞の安否を常に念頭に置き、人民のための外交の責任をしっかりと担い、駐日大使館・領事館を華僑同胞の『団結の家』、『温かい家』にしたい。』と、華僑華人に対する深い愛情を述べられました。

また、中華人民共和国駐日本国大使館主催の「着任のレセプション」が5月9日、東京都千代田区ホテルニューオータニにて開催され、政財界や日中友好に関連する団体等から約1,000名が出席し、初鹿野惠蘭理事長が出席しました。

吳江昊大使は15年ぶり3度目の日本大使



吳江浩・新大使

館勤務となり、スピーチの中で、日中両国各界の友人に對し、日中関係の健全で安定した發展を維持することが重要な任務だと述べ、新しい時代に相応しい關係を構築したいと抱負を述べられました。

レセプションでは、福田康夫元首相が乾杯の音頭をとり、吳大使に期待を寄せました。今年は中日平和友好條約締結45周年の記念の年であり、更なる日中の平和・友好の安定・發展が期待されます。

未来へ向かう交流活動③

雲南省副省長が5年ぶりに訪日

東京大学森田一樹教授へ表敬訪問



岩手県達増拓也知事のお招きを受け、雲南省の教育、科学技術等の分野を担当する張治礼副省長、雲南省科学技術庁長ら一行が2023年5月26日—29日、東京や岩手県をご訪問されました。

26日午後一行は、長年に渡り昆明理工大学で研究指導を行ってきた大学院工学系研究科の森田一樹教授へ表敬訪問を行い、



右・張治礼副省長

「雲南省の科学技術の發展に貢献してきたこと」に感謝の意を伝えました。協会の初鹿野理事長や林理事も同行し、関係各位と交流を深め、雲南省と東京大学の共同研究や、人材交流について意見を交換しました。

その後、一行は岩手県での視察を行われました。岩手県は2018年に雲南省に駐在事務所を開設し、雲南省との交流を深めてきました。雲南省と岩手県の多方面に渡る今後の協力についてご意見を交わされました。

5年ぶりに雲南省の副省長の日本訪問が実現し、大変な喜ばしく、この度の訪問を皮切りに、雲南と日本の要人の往来や民間交流が、ますます活発になることを期待しております。

未来へ向かう交流活動⑤

蘇州支援者交流

初鹿野理事長と林理事が5月下旬、蘇州六芸塾の中日国際クラスを訪問しました。六芸塾は2017年、江蘇省蘇州市古城区に設立された日本留学専門の予備校です。留学試験をはじめ、礼儀作法や



芸術、スポーツなどの教科指導をしています。約120人が在籍、毎年約40人が日本に留学します。卒業生の顧暢さんと熊寛さんは日本に留学後、協会のサポートを受けました。六芸塾の学生は今後、1年間東京の日本語学校で学び、希望する大学を受験します。

初鹿野理事長一行は厳しい暑さの中、「暮らし、学び、働き、感謝できる生徒を育て、日本の一流大学へ進学する」という理念を掲げる六芸塾を参観しました。初鹿野理事長は理念に理解を示し、優秀な人材を育成し、日中の友好交流に貢献するよう先生方を励ました。また、学生たちが来日した後、協会活動に積極的に参加して様々な見方で日本を理解し、社会貢献の力を高めてほしいと伝えました。

許峰(協会顧問、六芸塾創始者)

連載

こんなにちはCSR —協会を支えてくださる協力企業からのメッセージ—

第31回●中国雲南酒膳坊「過橋米線」

概要 中国雲南酒膳坊「過橋米線」は、「氣鍋鶏」や「過橋米線」が代表料理。「小さい店、大きい料理」を信条に、雲南彝族のシェフが現地の食材を使い、昔からの雲南風味や調理方法を守り続けている。日本でガチ中華、ディープチャイナを楽しめるお店として、食べログ「百名店2021年」に選定された。秋葉原店、上野店、日暮里駅と三店舗あり、多くの人に親しまれている。

所在地:〒101-0021 東京都千代田区外神田6-5-11 MOAビル1F(秋葉原店) TEL: 03-3835-7520

営業時間: 昼 11:30 ~ 14:30 / 夜 17:00 ~ 22:30

アクセス: 地下鉄銀座線末広町駅 徒歩1分 HP: <http://www.kakyoubisen.com/>



店主の岸川利男さん



美味しい雲南料理を日本の皆さんに是非食べてほしい」岸川利男さんはそういう想いで18年前に雲南料理店「過橋米線」を開き、協会との縁が始まりました。初鹿野理事長やアルバイトの留学生から聞く雲南の様子、会報から見える活動に心動かされ、ボランティアに参加するようになったといいます。

特にチャリティーゴルフコンペでは、普段な



お店の入り口

かなか会う機会のない皆さんと年齢や職業、国籍も関係なく交流できるのが楽しく、毎年コンペを心待ちにしているそうです。こうして「25の小さな夢基金」の里親サポーターになり、法人会員にも入会し、娘の岸川佳代さんもボランティアとして関わるなど、家族ぐみで協会を応援するようになりました。今では理事長とは兄妹のような関係だと言います。

支援活動を通じてたくさんの思い出もできたそうです。夢基金で春蕾生を支援するようになり、感謝の気持ちがこもった手紙を受け取ったことは感動的で忘れないといい、いつか彼女に会える日を楽しみにしています。

昨年は、日中友好正常化50周年記念の「日中交流フェスティバル」で、雲南料理のPRのためお店を閉め、スタッフ総出で雲南米線を販売。当日は長蛇の列ができる大好評で、2日間で600食を完売しました。慣れないため大変でしたが、印象に残る活動になりました。これからも雲南と日本の皆さんをつなぎ、自分も他人の人生も楽しくなるような活動を、協会とともにできることから頑張っていきたいそ

うです。

店内でも国際交流が生まれることがあると言います。日本人のお客様がメニューを見て悩んでいると、隣席の中国人のお客様が料理を紹介したり、アドバイスをしてあげたり、会話を楽しんでいることがあるとか。雲南料理を食べたい方、協会の話を聞きたい方は、是非「過橋米線」に足を運んでみてください。



娘の岸川佳代さん

過橋米線

大宮支部イベント報告

さいたま市国際ふれあいフェア2023



10月9日、さいたま市国際ふれあいフェア2023にコロナ後2回目の出展をしました。当日の空は少し曇りがちでしたが、暑くなく民族衣装を着るのに最適な天気でした。今年の秋はイベントを開催するところが多かったこともあって、会場に来た人は例年より少ないよう感じました。大宮支部のブースは午後から試着のお客さんが絶えませんでした。久しぶりに会員やその

ご家族などがいらっしゃり、そして大勢のボランティアが参加したので、ブースはすごく盛り上がりました。毎年大宮支部のブースに立ち寄っている常連の方にもたくさん会いました。飛び入りのボランティアや、「次回のイベントの時はぜひ手伝いたい」と言ってくださる方がいて嬉しい限りです。一方で、ブースは狭く、雲南のことをもっと知りたいお客様がなかなか中に入れない状態でした。この点について今後対策を取る必要があると思いました。

寺内明子(大宮支部長)

ボランティア協力(順不同、敬称略): 大泉國雄、川口邦夫、市川由美子、佐藤正典、小俣小輝、遠間菜津子、青柳茂樹、村上愛平、龐茜、岡田有美、森瞳、角田果穂、寺内明子

名古屋支部イベント報告 グランシップ東アジア文化交流フェア
EAST ASIA meets SHIZUOKA 名古屋支部初出展

「グランシップ東アジア文化交流フェア EAST ASIA meets SHIZUOKA」がゴールデンウイークの5月3日と4日、静岡市の静岡県コンベンションアーツセンターで開かれ、協会は一般社団法人「日本雲南総商会」と共同で初出展しました。汗ばむほど天気が良かった期間中、約3万人が来場。名古屋支部の羅時珍さんと邱柳燕さんは、来場者に会報『彩雲の南』を配ったり、協会の設立主旨や活動実績を説明したりしました。皆さん熱心に耳を傾けていました。少数民族衣裳の試着とプーアル茶の試飲は大好評で、ブースは終始熱気に包まれていました。

羅さんは「静岡の皆さんは本当にフレンドリーで、好意的に接してくれました。名古屋から協会や総商会のことをPRしに來たかいがありました」と話していました。静岡には協会の「50の小学校プロジェクト」25校目支援者の鈴木良弘先生がいらっしゃいます。筆者は2016年9月、初鹿野理事長や鈴木先生たちと開校式に参加したことを思い出し、静岡は国際交流への関心が高く、温かい人が多いと感じました。

なお、2023年東アジア文化都市に、日本から静岡市、中国から四川省成都市と広東省梅州市、韓国からは全州市が選ばれました。

董紅俊(日中青少年交流部長)

イベント報告 第23回 定時総会開催

第23回定時総会が6月17日、技術評論社5階の会議室で開かれ、議案は全て原案どおり承認されました。

第1号議案 令和4年度事業経過報告について

第2号議案 令和4年度会計収支決算報告・会計監査報告について

第3号議案 令和5年度事業計画案審議について

第4号議案 令和5年度会計収支予算案審議について

お知らせ

祝協会元スタッフ翁まひろさん 小説家デビューの夢叶える



翁さんは大学卒業後、協会の職員になり、当時から小説家になることが夢で、協会では会報誌や記念誌『笑顔を君に』、技術評論社『認定NPO法人名鑑』などの仕事に取り組みました。

翁さんは手紙で「精神的に未熟だった私が(時間がかかりましたが)小説家という夢をつかめたのも、理事長のお力添えがあったからです。協会での日々、出会い、思い出、経験…その全てが私の宝物です。人見知りで緊張しやすい性格だった私を大きく変えてくれたのは、協会でした。協会で多くのチャレンジをこなしたように、一生懸命、そして楽しんで、この新しいチャレンジに向かって行きます。」と感謝を綴っていました。

お知らせ

正会員・法人会員・賛助会費の皆様へ

2023年度の年会費請求書を4月上旬、郵送しました。未納入の方は早めにご納入ください。納入された皆さま、ありがとうございました。協会は皆さまの会費と寄付金で支えられています。ご理解のほどお願い申し上げます。

異動に伴う住所や電話番号の変更などがありましたら、事務局までご連絡ください。

◆◆◆◆◆会費・ご寄付振込先◆◆◆◆◆

①銀行振込

三菱UFJ銀行 目黒駅前支店 普通 1300380
特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会
(トキメイリヨウカフ カウセイジンニッポウ ジュンナンレンギ キョウカイ)

②郵便振替

振替口座 00100-8-610935
加入者名 特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会

大宮支部イベント報告

大宮支部4年ぶり出展
さいたま市「国際友好フェア2023」

さいたま市「国際友好フェア2023」が5月3日、4日、市民の森・見沼グリーンセンターで4年ぶりに開かれました。両日とも快晴に恵まれ、5万人が来場しました。世界の料理や手工芸品のブース、外国人と交流できるブースが設置されたほか、外国の音楽や伝統的な踊りが披露されました。

大宮支部は、2日間ともボランティア10人以上が参加、雲南の民芸品紹介と民族衣装の試着を行いました。ボランティア村上愛平さんのかわいい手作りの品や、森瞳さん提供のキャンディーに子どもたちは大喜びでした。

雲南の鮮やかな民族衣装を着た人で賑わう大宮支部のブースは、物販中心のブースと比べひときわ国際色豊かでした。ボランティアの皆様、ご協力ありがとうございました。
寺内明子(大宮支部長)



若いボランティアも多数参加



お詫び

当会報誌『彩雲の南』第84号の発行が大幅に遅れましたことをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

毎号楽しみにしていらっしゃる皆様、発行にご協力いただいている皆様、本当に申し訳ございませんでした。

皆様と協会をつなぐコンテンツの一つとして情報をご提供できるように引き続き努力してまいりますので、何卒、ご理解いただけますようお願い申し上げます。

協会イベントに関するお問合わせ

東京本部事務局

TEL. 03-5206-5260

(平日10~17時)

✉ yunnan@jyfa.org



△子どもにも大好評だった民族衣装試着

ボランティア協力(順不同、敬称略)
羅時珍、邱柳燕、董紅俊

イベント報告 令和5年度第3回理事会開催



令和5年度第3回理事会が11月22日、技術評論社会議室で開かれました。

「日本と雲南省少数民族の友好の夕べ第

20回チャリティー忘年会」と「日本雲南聯誼協会設立25周年記念事業」について審議され、全て原案通り承認されました。

参加された役員の皆様、ありがとうございました。

『彩雲の南』へのご意見・ご要望をお待ちしています

いつも『彩雲の南』をご覧いただき、ありがとうございます。『彩雲の南』は生き生きとした景色が広がる雲南を指し、皆様と協会をつなぐ『彩雲』でありたいという思いを込めています。もっと楽しんでいただけるよう、ご意見・ご提案を随时募集しています。

〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町21-13 1階
認定NPO法人日本雲南聯誼協会

東京本部事務局

✉ yunnan@jyfa.org

までお気軽に寄せください。

編集後記

コロナ禍が明け、中国からの留学生、旅行客を受け入れる環境がようやく整ったと思ったら、福島第一原発の処理水海洋放出を巡り日中関係がぎくしゃくし始めました。日中友好を軸とした協会活動は翻弄されがちです。以前、ある交流イベントで「なぜ中国の少数民族のために活動するのか?」と聞かれたので「目の前に転んで泣いている子どもがいたら助けてよ。国籍関係ありますか?」と答えた。草の根交流は人ととのつながりです。
(編集長・木本一彰)